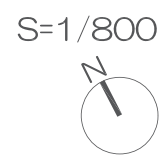
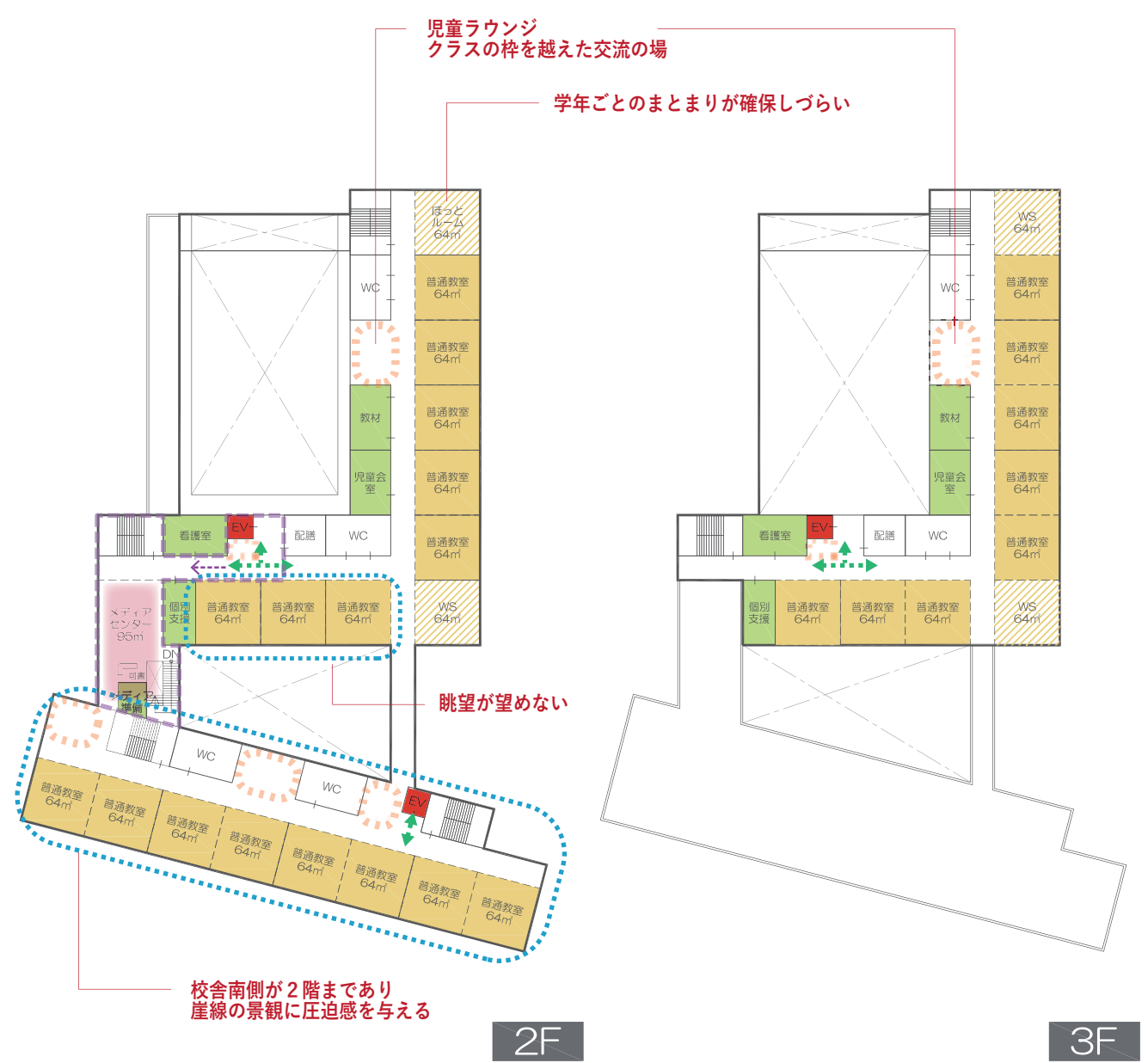
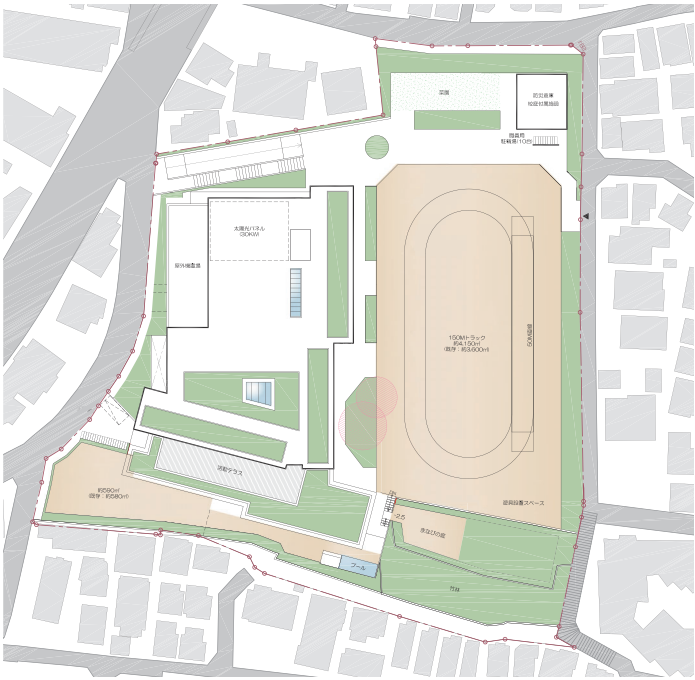
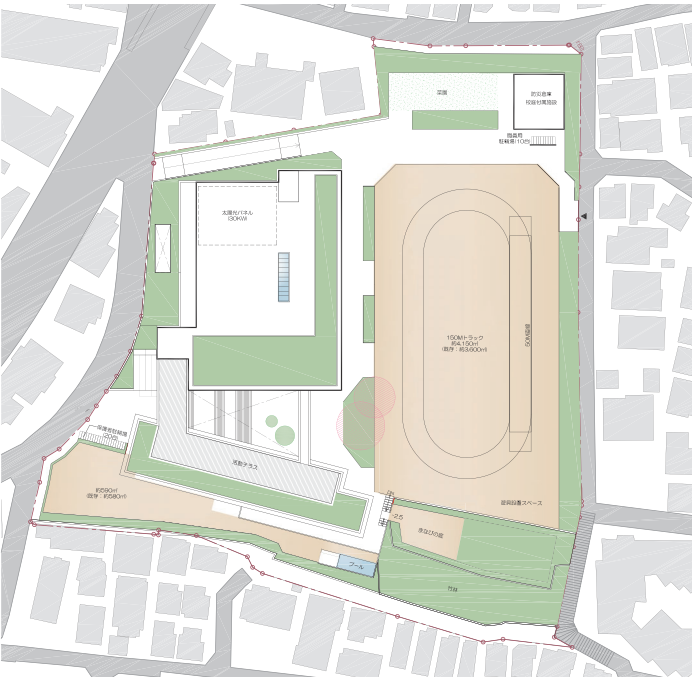


B 案



- 凡例
- ▲ 小学校出入口
 - ▲ こども園出入口
 - ▲ 給食搬出入口
 - 緊急車両動線
 - 車椅子動線 (バギー・ストレッチャー等)
 - 地域開放範囲
 - 地域開放動線

各案比較表

		A案		B案	
					
延べ面積		・約10900㎡		・約10900㎡	
Ⅰ教育・子育て	児童数増加への対応	・人口増を見据え、普通教室24室、ワークスペース3室を確保	○	(左記に同じ)	○
	必要諸室の配置 管理諸室の配置	・管理諸室は校庭に面して主要諸室を配置できる ・特別支援学級等は1階南側に集約配置、専用昇降口も設置可能 ・ 特別支援学級等は保健・看護室にも近接配置	◎	・管理諸室は校庭に面して主要諸室を配置できる ・特別支援学級等は1階南側に集約配置、専用昇降口も設置可能 ・特別支援学級等は保健・看護室とは距離がある	○
Ⅱ生活・健康	小学校の 学習・生活環境 (校庭・屋内の 環境含む)	・校庭面積:約4150㎡ ・トラックと桜の干渉が少ない ・トラックは150m確保可能 ・普通教室は南向きまたは東向き ・ 普通教室は学年ごとのまとまり・連携を確保し易い ・ 新BOPは1階の校庭と同一階に設置、体育館も利用し易い配置 ・ メディアセンターを中心とした学びの環境確保	◎	・校庭面積:約4150㎡ ・トラックと桜の干渉が少ない ・トラックは150m確保可能 ・一部の普通教室が中庭に面しており、眺望の確保が難しい ・普通教室は学年ごとのまとまりを形成しにくい ・新BOPは地下1階に配置のため校庭との接続性に懸念あり ・メディアセンターを中心とした学びの環境を確保しづらい	△
	認定こども園の 学習・生活環境 (園庭・屋内の 環境含む)	・園庭面積:約590㎡ ・全ての部屋を園庭向きに配置 ・各諸室に採光・通風が確保できる ・遊戯室、多目的室は一体利用可能な設え ・エントランス付近に保健室を設置(緊急車両寄り付き可能) ・認定こども園専用の給食室を確保	◎	(左記に同じ)	◎
	医療的ケア児 への配慮	・EVを昇降口からの視認性が高い校舎の中央に配置 ・地下1階の駐車場に送迎車・緊急車両の入庫が可能 ・適切な大きさのEVを設置、駐車場から各階へアクセス可能 ・昇降口やEV付近に保健室・看護室(1～3階)に設置 ・昇降口・特別支援昇降口・保健室前に緊急車両寄り付きが可能 ・地下1階にも緊急車両寄り付きが可能	◎	(左記に同じ)	◎
Ⅲ地域・景観	特別教室配置 地域開放	・ 地域開放エリアを集約配置し、セキュリティラインを設定し易い ・ EVを設置し車椅子動線にも配慮	○	・体育館と合わせた地域開放エリアを設定しづらい ・地下1階の特別教室へは、スロープにてアプローチ	△
	景観配慮、眺望への配慮	・校舎南側ボリュームを比較的低く抑えられる(1階まで) ・ 崖線の緑の連続性を維持しやすい ・ テラスや南側共用部・教室からの眺望を確保 ・ 崖線の地形を内部にも取り入れた砦ならではの学びの環境を確保	◎	・校舎南側ボリュームが比較的高く大きい(2階まで) ・崖線の緑の連続性を阻害、圧迫感を生じる懸念がある ・テラスや教室からの眺望を確保 (A案に比べ共用部から望める場所が少ない)	△
	既存樹木の保全	・百年桜の保存は見込める ・松の木は移植や別の形で継承を検討	○	・百年桜の保存は見込める ・ 松の木は現在地で保存 ※樹木医の所見あり	◎
Ⅳ自然・環境	環境負荷低減 (外壁面積・ZEB への配慮含む)	・ 外壁面積は比較的小さい ・湧水保全および雨水貯留等を検討	○	・外壁面積が比較的大きく、環境負荷への影響が大きい ・湧水保全および雨水貯留等を検討	△
Ⅴ安全・防災	動線計画 (通学路の内容含む)	・門を東側の正門の他、北西側に1ヶ所配置 (学校の北西の大蔵住宅建て替えに伴う人口増により北側に門がある方が将来的な需要が大きい) ・ 内部廊下は回遊性があり移動距離が短い	◎	・門を東側の正門の他、南西側(既存幼稚園門近く)に1ヶ所配置 ・内部廊下は中庭を挟むため動線が比較的に長い	○
	災害対策	防災倉庫の拡充 非常用電源を設け災害時にEVでの移動に配慮	○	防災倉庫の拡充 非常用電源を設け災害時にEVでの移動に配慮 ただし、中庭によって校舎が分断されるため2台のEVの稼働が必要	△
その他	建設コスト	・ B案に比べ外壁面積が少なく、掘削面積が小さい。	○	・A案に比べ外壁面積(約700㎡増)が大きく建設コストに大きく影響する ・地下部分の掘削土量(約1380㎡増)が多く建設コストに大きく影響する	△
総合評価		◎		△	

児童ワークショップ実施概要（案）

1. 目的

子どもの意見が反映される子どもを主体とした教育に取り組むため。

（世田谷区教育振興基本計画 令和 6 年度～10 年度より）

2. テーマ

《つなげよう、砧の過去・現在・未来》

3. 学習のねらい

- （１）身近な自然環境に着目し、砧小学校の立地や自然の特徴に関心を持つこと。
- （２）未来の砧小学校をイメージし、協同的な活動を通して、学校や郷土を愛する心をはぐくむ。

4. 実施対象及び内容

（１）対象

砧小学校に在学する 6 年生（クラスまたは学年単位）

（２）内容

総合的な学習の時間を活用し、5 段階のステップを踏む。

- ①砧小学校の改築について知り、学習の見通しをもつ。
- ②学校周辺の自然環境についてフィールドワークを行う。
- ③新校舎に残したい自然について、グループで話し合い、意見をまとめる。
- ④プレゼンテーション資料としてまとめる。
- ⑤プレゼンテーション※を行う。

※在校児童から校長先生、事務局、久米設計を想定

5. 実施結果報告

学校・事務局からの本委員会への提案としてとりまとめ、第 3 回検討委員会にて報告する。